

FTCチェンジメーカー教育プログラムは、子ども・若者一人ひとりが社会問題を自分ゴトとして捉え、問題解決に向けたアクションを起こし、社会参画を通して学ぶ、当団体が開発した教育プログラムです。毎月学校現場での最新の教育・授業実施事例をお届けしています。

特集：学校でのアクション実施例：小学校編 VOL.1

『子どもたちのオリジナルアクションアイデアを引き出し、実行に移す。』

東京都世田谷区立烏山小学校 | 2020年4月～現在



2020年よりフリー・ザ・チルドレン・ジャパンと総合の授業で年間を通して連携している東京都世田谷区立烏山小学校。今年度で2回目の社会を変えるアクションを無事に終えることができました。

コロナ禍が広がる前に校長先生にお声掛けをいただき、どのような展開になるか不安ではありましたが校長先生・学年団の先生方の多大なるご尽力で子どもたちがグループごとに様々なアクションを実施しました。

年間プログラム・導入授業の流れ

こちらのアクションを起こすまでに、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、『社会問題を知る』『アクションのアイデアの出し方』『アクションの計画の方法』『チームビルディング』の要素を入れた出前授業を2回(4コマ)にわたり実施しました。年間を通して、相談を重ね授業を作り上げました。導入授業の様子は[こちら](https://ftcj.org/archives/18369) →<https://ftcj.org/archives/18369>

▼導入授業の児童の感想

「社会問題は自分からは遠い・関係ないものと思っていたけれど、身近なことから協力できることに気づいた」
「大人になってからじゃないと社会問題に取り組めないと思っていたが、同じくらいの歳の子たちが活動しているのを見て、自分にも何かできそうだと感じた」
「これから自分たちで世界を変えて、世界中の人が平等に、幸せに生きていけるようにしていきたいと思いました。」
といった感想が子どもたちから寄せられました。

▼1年間の流れ

- 4月：学年の先生と打合せを行い、テーマに沿った実現可能な年間計画を作成。
- 5月：授業①＝世界の格差や諸問題について知るワークを通し、SDGsへの理解を深める。
- 6,7月：各学級で興味を持ったゴールについて個人やグループで調べ学習の実施。
- 9月：1学期の調べ学習のまとめを学級で発表。
- 10月：授業②＝各学級代表グループがまとめの発表とFTCJスタッフからのフィードバック。
アクションの起こし方と計画の立て方についてのワーク。
- 11月：グループごとに実施するアクションを決め、計画を立て実行。
- 12月：アクションの成果や学びについてまとめて発表する。
FTCJスタッフからフィードバック



小学生の子どもが取り組んだ社会を変えるアクション

- ・子ども食堂が地域に少ないことについて区議会議員に手紙を書いて質問する。→実際に学校で対面し、話を伺えた。
- ・学校公開日に昇降口で募金活動を行い、集まったお金を水の支援を行う団体に寄付する。
- ・地域の川の現状について東京新聞に手紙を書く。
→学校に取材をしに来てもらい、記事になった。
- ・児童労働について知ってもらうために、児童労働についての情報や募金活動について説明したものを風船につけて学校の屋上から飛ばす。(※生分解性の素材の風船を使用)
- ・調べた社会問題についてのパンフレットを作成し、下級生の教室を回って説明をした。同時にアンケートも実施し、問題に対する認知度などを調べた。

プログラムの大切なポイント

『楽しみ、好きなことを活かしながら、社会をどう変えられるか。』子どもたちが主体的に行動を起こすためには、社会問題を自分ゴトにすることが大切です。まずゲーム感覚のワークショップから社会の現状を知り、自分が社会の一員であることを自覚していきます。さらに、楽しみながら社会を変えていった同年代の事例を知ることで、子どもたちの目の色は一気に変わっていきます。自分たちにもできそう！自分たちもしたい！と気持ちが切り替わっていくのです。あとは、アクションを起こす方法さえ知れば、子どもたちの天才的なアイデアがどんどんあふれだします。ごみ拾いや、寄付を集めるといった見える成果の奥には、子どもたちの試行錯誤が詰まっており、どんな小さなことでもアクションを実行に移すことで、今後社会を変えていく一歩を踏み出すことができます。

担当ファシリテーターより

アクションの成果発表会を見学させていただいた際には、自分たちの行動を輝いた目で報告してくれていたことが印象的でした。実際にアクションを起こし、新聞社の取材を受けたり、区議の方がいらしたりと目に見える成果はもちろんのこと、結果が数字には表れなくても、自分の起こした行動の過程をしっかりと振り返ることが、子どもたちの成長と自信に繋がったようでした。子どもたちだけでなく、先生方も子どもたちのアクションと一緒に楽しみ、成果を子どもたちと喜び合えることも、アクションを実施する授業の醍醐味かもしれません。

このような年間の授業の実現は、

- ・校長先生の深い理解
 - ・担任団の先生方と子どもたちの信頼関係と見守る力
 - ・フリー・ザ・チルドレン・ジャパンスタッフの熱い思いと実績
- この3つがあったからこそだと考えています。

この活動を多くの学校に広め、チェンジメーカーを増やしていきたいです！